

# 越谷市 手をつなぐ育成会だより やまびこ

編集 越谷市手をつなぐ育成会  
会長 高野 淑 恵  
〒343-0021 越谷市大林235-9  
TEL・FAX 048-977-1908  
発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会  
理事長 高野 淑 恵  
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂  
2-15-3 母子福祉会館内  
TEL 048-833-0444  
FAX 048-833-0400  
発行日 令和2年6月30日  
購読料 20円は会費に含む



## 『新しい日常……』

越谷市手をつなぐ育成会 会長 高野 淑 恵

平素よりご支援ご協力戴いております皆様、誠に厚く御礼申し上げます。

また新型コロナウイルスに罹患された皆様には一日も早く快復されますことをお祈り申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また医療従事者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

さて、オリンピッククイヤーとして希望と期待に満ちた新年を迎えたのも束の間、新型コロナウイルスの感染拡大によって世界中が『何事ともない普通の日常』を失いました。オリンピッククイヤーどころか思いもよらぬ2020年になってしまいました。姿も見えず出口も見えず、ワクチンも特效薬も見えてこないウィルスとの闘いです。

不安と混乱が解決されないうまま、「With コロナ」の『新しい日常』がこれからの生活スタイルになるのだそうです。私たちの施設、干草園や野の花は、今まで元気に施設の外に飛び出して旅行やレクリエーションを満喫してきたのですが、今年はそうした行事はほぼ全滅です。支援員さんと本人たちとで『新しい日常』を作りあげていくしかないですね。それにしても、

「コロナが海を越えてやってくる前の」  
「どうしてこない、普通で、ありふれた日常」がどれほどありがたいものであったことか……。知的障害があると持病があったり、免疫力が低かったりするので、通常であっても家族は子どもたちの健康に気を遣います。現在のように「コロナ渦が吹き荒れていれば尚更です。」

何があっても私たち家族は大切な子どもたちの命を護ることを最優先にしなければなりません。施設でも家庭でも、自粛による閉塞感やストレスはありますが、少しでも楽しいことうれしいことを見つけて、『新しい日常』を作り出していきましょう。

多くの人が自分なりのプラス思考を生み出してがんばっているなか、残念なことにも、「コロナ渦のごさへ」に紛れて臭いものに蓋をしたり、真実を闇に葬ろうとする人たちもいます。たとえば、賭博麻雀に興じていた某検察官の甘い処分についてマスコミはもう何も報じていません。三権分立という民主主義の根幹には大きなひびが入ったまま有耶無耶になろうとしています。また、平成27年に多くの知的障害者が残虐に殺傷された「やまゆり園」では、この事件以前

から日常的に虐待が繰り返されていたと言われていました。その調査が、コロナ対策で忙しいからという信じられないような理由で打ち切りになりました。

以前から繰り返されていた虐待が殺傷事件を引き起こす温床となっていたことは、事件当初から疑われていたことであり、その解明無くしてこの事件の終息はありえません。しかも事件当初、「自分たちも被害者である」と述べていたやまゆり園の代表者の言葉は、抵抗すらできず理不尽に命を奪われた方たちに対する冒涇でしかありません。「コロナを言い訳にしてこの調査を打ち切った神奈川県行政の良心はどこにも見えず、まさにどさくさ紛れ、と非難」のごうでした。神奈川県は、堪らず、あつという間に調査継続を決めました。当然です。

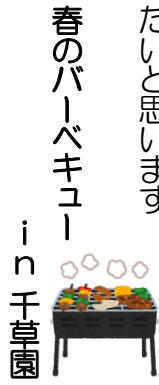
「虐待防止法」という法律はあっても、真つ先に遵守すべき人たちに法の意味や理念の意識がないのであれば、一般社会に浸透していくことは難しいです。

ウィルスも虐待も、人類が誕生した頃から在り続けていますが、未だに勝利してはいけません。それでも克服する努力はしていかなければなりません。

人が持つ叡智と友愛と希望を武器に。

## 千草園だより

新しい年度が始まり、早いもので三ヶ月が経過しました。新型コロナウイルスも終わりが見えてこない中ですが、対策を行いながら活動に取り組んでいきたいと思えます。今回は四月から六月までの活動や千草園の日々の様子をお伝えしたいと思います。



四月十七日(金)に毎年恒例の春のバーベキューを実施しました。例年ですと、千葉県野田市にある清水公園にて実施していますが、今年は新型コロナウイルスの影響により、施設内での実施となりました。今年には事前にニグループに分かれて食べたい食材などのアンケートを実施しました。当日はグループごとに調理器具や食材の準備をおこないました。そし

て、みんなで準備の後は、お肉や焼きそばなどを美味しく笑顔で食べていました！お腹もいっぱい、笑顔もいっぱい満足そうでした！おっと！もちろん、片付けまでしっかりとみんなで力を合わせて頑張りました。次回は自然の中で実施できるといいですね！



### お楽しみ昼食会



六月十二日(金)にお楽しみ昼食会を実施しました。新型コロナウイルスの影響により、所外活動が制限されているため、何か少しでも楽しめるものがないかと考え実施をしました。今回は、利用者の皆さんに選択をしていただくことに重点を置き、支援員で予め和食、洋食、

中華、その他のジャンルから各30種類のメニューを写真で出して、メニューを利用者の皆さんに提示をして120種類の中から好きな料理を選んでいただきました。たぐさんのメニューを嬉しそうに選ぶ方や、何にするか迷う方、普段食べたことのない料理を選択する方など様々でした。選択した料理をテイクアウトして、みんなで昼食会を楽しみました。皆さん自分たちで選んだ料理を笑顔で美味しく食べていました。今回の昼食会を通して、私たち支援員も意思決定をしていただくことの大切さを改めて感じました。今後更に工夫をしながら、それぞれが意思決定をしていただけるような環境を作っていきたいと思えます。



千草園では日中活動として、受注作業の内職やボールの洗浄、アルミ缶潰しなど、毎日みんなで力を合わせて頑張っています。そして、今年度より毎月、施設内に飾れる創作物の制作にも取り組んでいます。出来上がった作品を飾ると、施設内が華やかになりました！千草園にお越しの際はぜひ、ご覧いただければと思います。



「最後に…」  
緊急事態宣言は解除されましたが、感染の心配が無くなった訳ではありません。早く落ち着いて、外に出て思いっきり楽しめる日が早く訪れるといいですね！  
(浅見)

# 野の花だより

令和も二年目に突入しました。緊急事態宣言が発令され制限された生活となつてしまいました。利用者の皆さんに少しでも楽しんで頂けたらと、職員がアイデア出し合い工夫を凝らした日中活動を行つてきました。今回はそちらをご紹介します。いきたいと思います。



十八日、通所日は調理実習でカレーライス作りを行いました。ソーシャルディスタンスを考へ、二階と一階に分かれ調理を行い、ゆつたりと調理する事が出来ました。越谷市内の給食で使用されているレシピで作ったので、どこか懐かしいような味に、利用の皆さんも

お代わりするなど、満足な様子でした。

二十四日は、お楽しみ会という事で、午前は納豆汁作りをする方、夢庵にお弁当を取りに行く方、シャトレレーゼに午後のおやつを買いに行く方に分かれました。夢庵の美味しいお弁当と、中々の出来の納豆汁に舌鼓を打ちました。午後は二月から四月の方の誕生日会を行い、ケーキを食べながら皆でお祝いをしました。



九日、通所日は調理実習で、ビビンバ井を作りました。調理実習のお手伝いも皆さん慣れたもので、進んでお手伝いをしてくれるので、最近はとても助かります。



午後はグループに分かれてジュースを買いに出かけ、皆さん好きなジュースを購入してニコニコ顔でした。

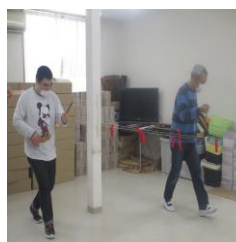


二十一日は五月の誕生日会を行いました。一階ではバースデーカード作りを行い、皆さん可愛いカードとお祝いメッセージを書いてくれました。二階では、ホットケーキミックスを使って、簡単なかぼちゃケーキを作ってみました。誕生日の唄も皆で熱唱し、楽しい誕生会となりました。



二十二日は、お楽しみ会を行いました。午前はミニ運動会を行いました。玉入や、お玉リレー、パン食い競争をグループに分かれて行いました。縮小型の運動会

ではありましたが、久しぶりの運動に皆さん張り切つて体を動かしていました。



二十六日の、お楽しみ会ではビンゴゲームを行いました。景品はお菓子の詰合せとあつて皆さんカードを握りしめ、まだかまだかと、数字とにらめっこしていました。お昼は爆弾ハンバーグのポリウム満点のお弁当に皆さん大満足の様子でした。



今後も皆さんの笑顔の為に楽しい日課を提供していきたいと思ひます。 「張ヶ谷」





K S株式会社 小林商会  
 代表取締役 小林 公弘 様  
 4月に千草園に、マスク400枚ご寄付いただきました。マスクの入手が困難でしたので、とてもありがたかったです。



千草園クッキーご購入  
 ありがとうございます

小林 公弘 様  
 中村 甫尚 様

## 会計報告

《 賛助会費 》 10,000円(10口)

《 売上金 》  
 ・わかめ 7,000円  
 ・ごま 8,400円  
 ・お茶 6,480円

ご支援ありがとうございます



### ◇賛助会員紹介◇

・澤田 裕二 様  
 よろしくお願ひいたします



### ご 紹 介

初めまして。  
 弊社は、医療連携体制加算に特化した看護ステーションとして越谷を中心に就労支援施設様を支援させていただいております。  
 私自身、障害と向き合う祖母を身近にしようかあり、その大変さを深く理解しております。  
 障害を抱える方の家族とお話をしてきて、この『医療連携体制加算に特化した訪問看護ステーション』に辿り着きました。今は、就労移行A型・B型・放課後デイに通われている利用者様に対して支援を行っております。  
 障害を抱えている全ての人達とそのご家族と支援者様の力になりたい、その一心で地元である埼玉エリアに出店致しました。医療と福祉を本来の意味で連携させ、全ての障害を持つ方の力になりたい、それが私の願ひであります。  
 障害は誰にでも起こり得る身近なものであり、多く抱えている苦しみや悩みは人それぞれであり、社会的不利のある方や外見だけでは分からない障害により苦しんでいる方など障害は多種

『BELLCare マイス越谷』  
 浅坂 駿太

多様であります。  
 人と人との関わりのお大切さから精神面のケアを中心とし、障害支援事業所に通われている利用者様の様々な思いに耳を傾け、通所者様が心身共に安定した状態で日々を過ごせるようにと思ひ、寄り添い・社会復帰・社会定着までを目指した看護を行っております。  
 利用者様を中心として、ご家族様、障害支援事業所のスタッフ様、相談員、医療機関、担当者様等と密に連携を取り、ひとりでも多くの利用者様が社会へ復帰できるための看護提供を行っております。  
 医療連携加算を導入する背景には、医療と連携し障害者の『二時障害を防ぎたい』という思いがあります。  
 厚生労働省による「平成30年度過労死等の労災補償状況」によれば、精神障害の労災補償の請求件数が増えており、うち自殺件数も増加傾向にあります。  
 一般就労をしている人達がそのような状況にあるなか、福祉事業所に就労する利用者(障害者)は、なおいっそのケアが必要ですが、事業所のスタッフは福祉のプロですが、医療との連携を深める事で、利用者にとって支援の幅は大きく広がります。